



(特定非営利活動法人)

NPO法人 ワンニャン会

会報 第13号 2017. 11

ワンニャン会会員の皆様へ



いつもご支援、ご協力ありがとうございます。

NPO法人ワンニャン会会報第13号を送付させていただきます。

2017年度より、県の施策「地域猫対策支援事業」が正式に始まりました。従来の田辺市の施策「飼い主がない猫の不妊手術事業」と並行して、実施団体の一つとして活動しております。

開設から三年が過ぎたドッグランも段々と設備が整い、犬達が元気に走り回っています。

今年4月に行われたイベント「ねこのわ」に協力団体として準備段階から参加し、当日は予想を大きく上回るおよそ3600人ものご来場をいただきました。

篤志の方の多大なご支援と皆様のご協力により、大きなイベントの実施にチャレンジし、やりきることが出来ました。

本当にありがとうございます。

仔猫の救護

なぎさ動物病院院長 沖美朝代

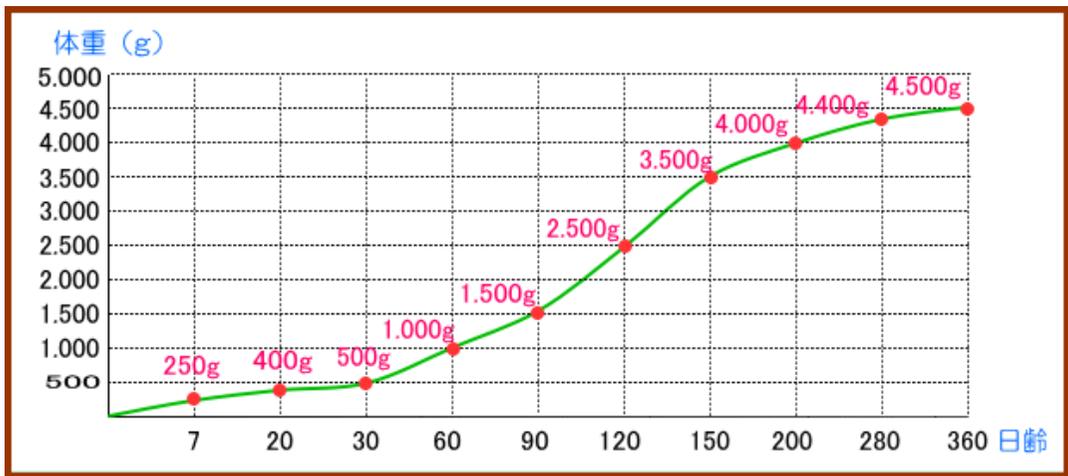
はじめに

生後すぐから1月半くらいまでの、仔猫のケアを解説します

成長期の管理は猫の一生に影響します。特に生後2カ月間の栄養補給と健康管理は、身体と脳の発育に重大な影響を及ぼします。

下図は標準的な成長曲線です。

仔猫の成長曲線（成猫時4.5kgの健康猫）



子猫を保護したら

a. まず保温です。元気に見えても、放置されていた仔猫は低体温で衰弱していることが多く命の危険があるので、夏でも保温してください。

身体が濡れていたら、ドライヤーなどで温めます。

入浴は、消耗するのでさせません。体の汚れは清拭やコームで除去し、湿気はドライヤーで完全に乾かします。

b. 体のチェックおよび生後どのくらいかを判定する。

温めても動かない、口呼吸している、下痢している等の兆候があれば、すぐに動物病院を受診してください。直ちに医療の介入が必要です。

眼ヤニ、鼻水、くしゃみ、ノミ、ダニ シラミや、黒褐色の耳垢がある場合も受診して下さい。その際、検便もお勧めします。一般のスポットタイプの駆除薬は、生後間もない仔猫には使えません。

下表は、保護される雑種猫の子供で、順調に発育している場合の数値です。

生後	体重	特徴	
すぐ	80-100g	眼、耳が開いていない へその緒が付いていることも	
4~6日	140-200g	へその緒が自然に取れる 前肢で上半身を支えられる	
8-14日	240-330g	約10日で耳が開く。聴覚は14日頃から 8-12日で目が開く。視覚は数日後から 10日頃後肢で下半身を支える	
15-20日	330-420g	歯肉が膨らみ、乳歯が生え始める。 這うように歩き始める	
21-25日	400-500g	徐々に自力排泄できるようになる。 (不完全) 走る、よじ登りができる	
30-35日	460-550g	自力排泄うまくできる 皿から飲食できる	
35日以降	600g-	社会性に個体差現れる	

*生後30日以降に保護された仔猫は、発育や栄養状態により、食事やケアの内容が変わります。2-3カ月齢でも、体重が少なく重度の栄養不良の仔猫があります。

動物病院を受診して、日齢を推定してもらい、適切な処置を受けて下さい。

- c.もし、母猫がいて、保護人に慣れているなら、7-8 週齢まで母猫に育ててもらうのがベストです。理由の 1 つは初乳です。生後数日間しか出ない初乳には、成長や感染予防上重要な物質が多く含まれています。市販の代替品は牛由来で高価です。さらに、行動学習の点や、メンタル的にも、仔猫の成長にはプラスになります。母猫に栄養のある食事と飼育環境を提供し、離乳が完了する 8-10 週齢のころ、母猫に避妊手術を受けさせます。

2.各週齢における仔猫のケア

a. 0-7 日 (1 週齢)

2-3 時間毎 1 回 1 日計 7-8 回の授乳が必要です。

1 日の必要カロリー 28kcal/体重 100g、1 日の必要水分量 18ml/体重 100g

この 1 週間は毎日体重を測定して下さい。前日比 10g 増が理想です

(例)ワンラックキャットミルク(森乳サンワールド)の場合、5.04kcal/体重 1g なので、体重 80g の仔猫の 1 日必要カロリーは、 $28 \times 80 / 100 = 22.4 \text{ kcal}$

1 日必要な粉ミルクの量は、 $22.4 \text{ kcal} \div 5.04 \text{ kcal/g} = 4.44 \text{ g}$

ワンラックの専用スプーンに 2g を 10ml の温湯に溶かすので、

80g の仔猫 1 日の授乳量は、スプーン 2.5 杯を 25ml (必要量は 22.2ml)

これで、80g の 1 日必要水分量 $18 \text{ ml} \times 80 / 100 = 14.4 \text{ ml}$ を満たす。

(注 1) 最初はなかなか飲めません。飲むのも下手で、鼻から出すこともあります。最初

の数回は 1 回授乳量を 1ml くらいに抑えて、上記 1 日量に満たなくても初日は 70% 位でも構いません。哺乳瓶を吸う力のない仔猫もいます。動物病院で注射シリンジをもらうと口に入れる量を調節しやすいです。温度は 37-38°C 位です

但し、口蓋裂(こうがいれつ)など、生まれつき飲み込めない病気もあるので、毎回ミルクを吐くときは動物病院を受診して下さい。

(注 2) 排泄を促します。尿は毎回の授乳時、便は 1 日 1 回に刺激します。

皮膚が薄いので、乾いた布等で摩擦しないよう、やさしく刺激します。

特に便は成長するに従い、出にくくなります。ミルクだけ飲んでいる時期の便は黄色

く柔らかいですが、悪臭があれば、異常です。すぐ受診して下さい。体内脂肪のない仔猫の下痢は、すぐ脱水し、体温体力を奪います。様子を見ないですぐ受診して下さい。

(注 3)寝床の温度を 30-33℃に保温して下さい。夏はエアコンの冷気に触れない所寝床を置き、中は上記温度をキープして下さい。湿度は約 60%が最適。温度計と湿度計があれば良いです。携帯カイロは便利ですが低温やけど、低酸素や脱水を起こしやすいので、注意が重要です。

b. 生後 1 週から 2 週まで(2 週齢)

約 4 時間毎に授乳します。

1 日必要カロリーと水分は、28kcal/体重 100g、13-22ml/体重 100g

この週も体重は毎日計量して下さい。前日比 10g 以上増が目標です。

この頃までには哺乳瓶を用意します。乳首ゴムのスペアが購入できる物が便利です。

毎使用後ブラシで洗い、清潔に使います。排泄刺激は 1 週齢時と同様です。

c. 生後 2 週から 3 週まで(3 週齢)

約 6 時間毎に授乳します。必要に応じて乳首ゴムの穴の大きさを調節します。

1 日必要カロリーと水分は、25-28kcal/体重 100g、13-22ml/体重 100g

このころから便秘することがあります。2 日以上排便なければ、通常の排便刺激では出せません。動物病院で処置してもらってください。この頃から、這い始めます。

不在中に寝床から這い出てしまうので、寝床ごと、ケージに入れておくことをお勧めします。寝床を深いカゴか箱に入れ、上から布を被せても良いと思います。

またこの頃、偶然自分で排泄することもあります。浅い容器に新聞紙を敷いたトイレを作り、ケージやカゴの中に入れて下さい。

*社会化期

生後 2 週から 10 週齢の間、母や兄弟猫とのやりとりや、人間、他の動物など、様々な経験を柔軟に吸収し、人間社会に適応することのできる期間です。母や兄弟からは咬み加減や狩りの方法、人との触れ合いやトイレなど、様々なことを学習します。活発なので、事故には注意します。猫は 1 度の経験から動機づけをする傾向が強いです。例えば、病院に行く時だけキャリーに入れて、「キャリー」=「いやな事」になります。普段から部屋にキャリーを置いておもちゃや好物を中に入れる等、マイナス印象を与えない工夫が必要です。猫は犬に比べて社会化期の終了が早く、人に慣れない母猫が初めて仔猫を餌場に連れてくる頃には、既に社会化の終わり頃で、母と同様警戒心が強くなり、保護しても人に慣れにくく、譲渡の対象にするのが困難です。

d. 生後 3-7 週(4-7 週齢)

1 日必要カロリーと水分 25-28kcal/体重 100g、13-22ml/体重 100g(7 週齢まで)

このころから、離乳食を 1 日 2 回からスタートします。仔猫用のフードを熱湯でふやかし猫用ミルクをかけたものを、1 回に大さじ 1-1.5 杯位与えます。初めは上手く食べられなくても構いません。徐々に 1 回量と回数を増やし(上記必要栄養量参照)授乳回数を徐々に減らします。2 週間後から、ふやかし時間を毎週少しずつ短縮し、4-5 週かけて離乳食を終了します。生後 8 週が、離乳完了の目安です。

授乳間隔は、3-4 週齢は 6 時間毎、4-6 週齢は 7-8 時間毎、6-8 週齢は 1 日 2-3 回です。この時期まで順調に成長しているなら、体重計量は週 2-3 回位でも大丈夫です。体重増加の遅い仔猫は授乳量を減らさず続けて下さい。週に 100g 以上増が目標です。

個体差がありますが、4週前後から自力排尿し始めます。十分確認できない場合、排尿刺激は授乳毎続けて下さい、排便ですが、離乳食が始まり、便は硬くなり、ますます出にくくなります。2日以上排便のない時は、前述の通り病院を受診して下さい。硬い便が栓になっています。

この頃から、母猫からもらった免疫抗体が下がり始めます。自然感染で鼻炎、結膜炎等の症状が出ると、治りにくく、眼と鼻腔の正常な成長を妨げ、慢性化します。

日本のワクチン販売会社は、初回接種を8-9週齢以上と指示しています。ですが、母猫も予防歴不明で初乳を摂取していない仔猫は、上記のような感染、発症、慢性化により、譲渡の機会を逸してしまう危惧もあります。国内外の専門家は、初回の予防接種を4-6週齢から推奨しています。実際に4-6週齢の仔猫に接種して、顕著な異常は報告されていません。この辺は、個々の獣医師の判断も分かれるところです。

e. 生後8週以降

離乳も完了間近、遊びも活発になります。8-10週でおおむね1kg位あれば、体の成長は問題ないと思います。旺盛な好奇心、追尾能力、バランス間隔など正常に成長していれば、各種駆虫、ワクチンを経て、譲渡の機会を待つことになります。

3. 終わりに

今年も発情期が始まり、この拙文を手にして頂く頃には、保護される仔猫も現れているかも知れません。今回は仔猫のケアについて、ポイントを解説させて頂きました。

生まれて間もない仔猫の世話は、子育てと同じで大変な労力です。でも正しい方法を学んで頂き、経験を重ねていけば、難しいことはありません。

それから、最後に力説したいことがあります。

救護した仔猫をケアすることは重要ですが、それよりも、成猫に不妊手術を施すこと、この徹底を最優先して頂きたいです。

4月1日から「和歌山県動物の愛護および管理に関する条例」で、飼い猫以外の猫への餌やりに関して一部改正された部分が、施行されます。

一部の愛猫家から強い反対を受け、非常に曖昧な規制になりました。それでも、無責任な行為の抑止になればと願っています。

私が今まで診てきた飼い猫以外の猫達は、ノミ、ダニ、疥癬、耳ダニがいたり、眼が開かない、クシャミ、鼻水が止まらない、喧嘩による膿瘍、栄養不良、不治の感染症、交通事故等、数えてもキリがない苦難を抱えています。冬は寒く夏は酷暑の環境で、ただ餌をやっていることが愛情とは、到底思えません。

ワンちゃん会の他、地域で活動している方達のご尽力は、本当に頭が下がります。しかしそれでも猫は増えます。猫は非常に繁殖率の高い動物です、何より不妊手術(オスも)が急務です。ぜひぜひこの重要性を、またの機会にお示したいと考えています。

ワンニャン会の今

中本 宣子

昨年からはまった地域猫支援事業、ワンニャン会では12箇所地域猫を支援しています。

田辺、白浜、今年度からはみなべも含めて行っています。

活動していく中で一番困ること、せっかく不妊手術を全頭済ませてこの地域完了！と思っていたら新たに猫が捨てられること。

昨年度は、一度に11匹も同時に捨てられ力が抜ける思いでした。

幸いこのケースは和歌山の団体さんが全頭引き受けてくれ(感謝!!!)比較的短い期間で解決したのです。

餌やりボランティアさんからの電話があると、又捨てられたのかとドキドキします。

原則、ワンニャン会では保護は行わないのですが、地域猫関連の場所では出来る限り対応したいと四苦八苦しています。

又、今年四月に開催した「ねこのわ」で協力ボランティアさんが増えたことで、地域猫の捕獲等、様々な手助けもあって出来ることの幅が増えてきました。

地域猫の中には人懐こく可愛い子もいます。

シャーシャー言っでパンチの飛んでくる子なら「頑張れよ、」と不妊手術後あっさりとは放せますが、ゴロゴロスリスリ、お腹を見せてコロコロと横たわる子を、又野に置いてくるのは再度捨てるような気分です。で、この子なら、と思える子は保護して血液検査、駆虫してから飼い主探しに明け暮れる日々、、、幸い、いい子なら、と家族に迎えて下さる方も少しづつ増えてきました。本当に嬉しい事です。

が、喜んでばかりもいられません。検査も、駆虫も保護もお金がかかります。

地域猫は和歌山県が手術券を出してくれるので手術代金はかかりませんがそれ以外にかかる経費は大きくて、昨年度ワンニャン会の収支は大赤字でした、、。(NPO団体なので和歌山県の資料から閲覧できます)

重ねて田辺市の野良猫の不妊手術事業も、行っています。

今年に入って、ワンニャン会で保護した子に重篤な感染症が出て、大騒ぎでした。やっと落ち着いたなあ、、と思っていたら貰われた子が人間にも感染する皮膚病になった事が分かりました。

その飼い主さんは出産を控えていたのでこちらから申し出て引き取りました、、

皮膚病の三匹兄弟がかなり酷い状態になり、一匹は入院中に虹の橋を渡りました。

二匹は現在も療養中、投薬とシャンプーを繰り返しています。

この子達に掛かった治療費たるや、....。

バザー、寄付などで何とかやってる弱小団体です。

皆様から頂いた寄付物品をバザーで売ったり、会費、寄付金で何とか、やっていきます。

献身的に動いてくれるボランティアのみんな、長く支えて下さる地元の方々のお陰で 20 年間やってきましたが、効率的に収入を得る方法を考えなくてはならないと最近ひしひしと思っています。

活動費を作りながら不妊手術事業をやっていくのは、正直大変です。

でも周りの方々の協力のお陰で少しずつでも前進していく事が出来ています。

どうか、これからもよろしくお願い申し上げます。



預かりボランティアを経験

檜皮真佐美

昨年の11月頃から、お手伝いに参加させてもらっています。

5月から預かり仔猫のお世話をさせてもらっています。8月11日までに6匹の可愛い仔猫達を養子縁組して頂きました。5匹めまでは、病気や怪我もなく、うちに長居する事もなく順調に新しい家庭へ巣立っていきました。が、6号クロ猫ちゃんが…。

下痢が止まらない、膀胱炎有り、皮膚病有り、一人になってしまったのに隔離しないとダメで可哀想で焦りました。と、思うのもつかの間、下痢が…おしっこが…もう✖️と思う日が続き、でも調子のいい子ばかりじゃないよな。と思い何かあった後で後悔したくないと言う思いでした。と、言うのも過去に何度も赤ちゃん猫を拾ってきては、うまく育てられず、天国への階段登らせてしまった悲しい経験をしていたからです。

その頃は、本当に無知で頼る人もスマホもなく、猫達に可哀想な事をしました。だから、気付いたり、気になったら即、行動!!を頭にたたき込んでお世話しました。2カ月近く経ち、皮膚病完治、膀胱炎完治、でも回数は減ってきたけれど、まだゆる〜いうんちが…。

そんな中お見合いが決まり多分今回もダメだろうと思っていたら、その日のうちに家族にして頂きました。

ちゃんとサヨナラ言ってなかったもので、どうしても会いたくて後日行先のお宅にお伺いしました。

会ってビックリもうすっかり新しい飼い主さん宅のキキちゃんでした。お話を聞くと下痢も一度もした事がないし、トイレできちんとするとの事でした。

うちに居た時のアレは何!?アタシが悪かったん!…ショックでしたが最終目的は仔猫の幸せなんで、ホンマに嬉しかったです。アタシの事は忘れてるみたいやけど…。

4号ラムちゃんのお家からも時々、幸せそうなラムちゃんの写真と近況を知らせて頂いて、ホンマに感謝です。新しい飼い主さんのもとに行くまでの短い間ですが仔猫達のかーさんになれて幸せです。

最後に猫が幸せだと世界が平和の証☆だそうです。

猫のかたちの穴

田端満須美

2016年2月、長く一緒に暮らした猫を亡くし、庭に咲いた梅を一枝添えて見送りました。日が経つにつれ寂しさは増し、後悔ばかりがつのる日々を過ごしていました。

ある日、娘が「お母さん…もう猫飼おう。決めた。」と言いました。
「猫が開けた心の穴は猫の形をしていて、猫じゃないと埋められないんだって。」

そう言って娘がワンニャン会さんにお見合いを申し込んで、我が家にやって来た子猫は片手に乗るくらいの小さな小さな三毛猫の女の子でした。

私自身は、まだ亡くなった猫を忘れられず戸惑っていましたが、やって来てすぐにお腹を壊した子猫に振り回されるうちに、ただただ愛おしさが込み上げてきました。

そして、子猫のお世話をしているうちに、前の子の子猫時代と重ねながら、あんなこともあったなあ…こんなこともあったなあ…と以前にも増して前の子のことも愛おしく思い出され、とても幸せな気持ちになりました。

もし、私のように猫を亡くし、なかなかその悲しさから抜け出せずにいる方は、ぜひまた猫を家族に迎えてあげてください。

そうすることで、亡くなった猫のこともまた楽しく思い出せるようになりますよ。

梅の花は「春告草」とも呼ばれ、万葉集の中でも数多く歌われています。

来年もこの子を抱き、梅の香りに先代の猫を思い出しながら春を待ちたいと思います。



「ワンニャン会の出会いから～」

小太郎ママ

家には愛犬(小太郎)がいます。

小太郎は小さい時からわんこ大好きな子で、散歩するようになりたくさんのお友達ができました。

犬同士が仲良くなると飼い主さん同士も仲良くなって新たな繋がりができ、その中でワンニャン会のドッグランが出来るよと、お誘い頂いてドッグランを利用させてもらうようになりました。

最初、ワンニャン会とは、ドッグランを利用させてもらうだけの繋がりだったのですが、ワンニャン会の方々とも仲良くさせてもらい色々な話をさせてもらう中で、現在の和歌山の犬猫の殺処分の現状、ワンニャン会の日々の活動などを知り、私に出来る事はないだろうかと思い少しずつお手伝いさせてもらうようになりました。

最初は猫部屋のお掃除のお手伝いでした。

それからバザー用品の値札付け、バザーのお手伝い、チラシ配り、野良猫の現状調査の同行など、私に出来る事を少しずつですが、お手伝いさせてもらっています。

私は仕事もしていますし、家庭もあるので、がっつりお手伝いはできませんが、少しのお手伝いでも、人の役に立ち、犬猫のためになる事の喜びを感じています。

小太郎と出会い、ワンニャン会と出会えた事によって、殺処分問題に向き合えた事は、私にとって良かった事です。

一人一人の意識が変われば、人にも動物にも優しい社会が出来ると私は思っています。

だからこそ、ワンニャン会の方々は今、私に出来ることを頑張りたいと思います。

犬猫が安心して暮らせる社会になってくれるのが私の願いです。



地域猫

は一ちゃん

昨年の5月下旬ごろ突然庭に6匹の仔猫があらわれた。父が追い出した数日後、別の仔猫が4匹自転車のカゴの中で眠っていた。いずれ親猫が連れて行くだろうと思っていたが、親猫は向かいの家でご飯をもらい、仔猫を含めうちの近所は十数匹の野良猫パラダイスと化していた。

6月に入り、仔猫たちは大きくなってきたがどうも調子が悪そうだった。ご近所の方に手伝ってもらい、慣れていそうな仔を3匹捕まえてもらった。動物病院で診察を受けると脱水症状があると言われ、点滴とダニ・ノミの駆除をしてもらった。ちょうどそのころご縁のあった和歌山市内の保護団体の譲渡会に2匹を参加させてもらい無事譲渡先が決まった。

7月はじめ1匹を捕まえ友人にあずかってもらいワンニャン会のブログに載せてもらうと、すぐに譲渡先が決まった。

残る仔猫は6匹、どうしたものかと思いつつ蚊取り線香・ご飯・水・薬を持って毎夜庭に出て行くことに。でも、このままじゃ絶対死んでしまう。目がいつちゃってる。暑い中起き上がる元気もない。ご飯も食べてくれない。どうしよう……。

今日は姿を見せないんじゃないか、明日には死んでしまうんじゃないかなどと考えてしまい、私は庭に出るのが怖くなっていた。

そんな時、私の前に天使が舞い降りた。犬の散歩で知り合った友人があずかってくれることになり、捕獲檻を仕掛け、小さいほうの4匹をお願いした。疥癬を患っていたり、猫風邪をひいていたり、回虫、条虫、コクシジウムとおなかの虫のオンパレードで、日々の投薬・目薬・消毒と大変お世話になり、前回と同じ保護団体の譲渡会で1匹ずつ譲渡先が決まっていた。

残り2匹はなかなか捕まらず、8月に入ってやっと捕まえ、天使宅、保護団体を經由しどちらも譲渡先は決まった。そのうち1匹は広島のコカフェに行き今はイケメンパパと幸せに暮らしている。

平行してご近所さんを説得し地域猫の申請をした。この仔たちの親猫を捕まえ不妊去勢手術を行い、トイレの設置、餌やりを何人かで続けている。最初「私の子供たちを奪ったにつつき人間。許さんぞ～」みたいな態度だった母猫も今ではゴロゴロスリ

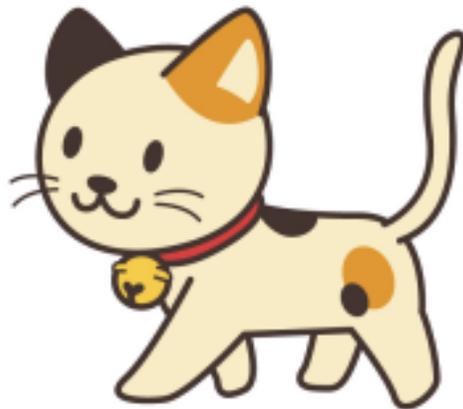
スリしてくれる。

猫を棄てる人は多い。この後も職場の駐輪場、コンビニの駐車場(うち1匹はネズミ捕りにかかったのか、のりでベタベタだった)、大浜の松林で仔猫を捕まえた。大浜の猫は前夜の大雨の中棄てられたようで小さな濡れた体を震わせていた。何の抵抗もなく捕まえられたところを見ると、飼い猫が産んでしまい飼えなくて捨てたのだろうか…人慣れしていた。こんな天気の日に捨てられた仔猫は保護されなければすぐに死んでしまうということを、想像出来ない人がいるんだと思うと悲しくなった。

私は幸せなことにたくさんの方の協力を得て飼い主を探す事ができた。目をそむけず声を出して良かったと思っている。

今うちの庭には、数匹の猫が出入りしている。家の中に入れてあげられなくて申し訳なく思いつつ、自分に出来ることをしてあげようと思いダンボールのベッドを作ってみた。使ってくれないところを見ると「これじゃ寒いんだよ！！」ってことか…。少しでも快適に、ご近所に迷惑をかけないように、地域猫として数年の命を全うするまで世話をするつもりでいる。

「地域猫」もっとかわいい呼び方ないですかね？



イベント「ねこのわ」を開催して

多田 弘美

「この地域の人と猫のためにイベントをしてみませんか？」とある方から声をかけて頂いたのが、イベント「ねこのわ」開催への始まりでした。

以前からワンニャン会の活動を気にして下さっていたというその方は、地域の人と猫のために、それからワンニャン会の活動の幅を広げる為に、イベントの必要経費の負担を提案してくれました。2016の秋に頂いたこの話は「是非やってみたい！」と私達をワクワクさせるものでした。

ワンニャン会を協力団体として、早速ねこのわ実行委員会を立ち上げた私達はイベントの内容を協議していきました。当初から「不幸な猫をなくそう」という主旨は決まっていたのですが、その主旨をたくさんの人に伝えたいからこそ楽しく集客性の高いイベントを考えたかったのです。

決まった内容は、手作り作家さん達による猫モチーフ作品の販売、各種体験コーナー、「熊楠と猫」パネル展、「地域猫」パネル展、「我が家の愛猫」写真展、飲食コーナー、バザー、チャリティオークション、猫の譲渡会、等でした。福祉イベントとして和歌山県や田辺市の後援も頂きました。今こうやって書き出してみても盛り沢山な内容だったなあ、と思います。

これだけの内容をしっかり企画・広報していくのは簡単なことではなく、開催まで半年あったとはいえ時間との戦いが始まりました。

でもその中で大きな嬉しい事がありました。「不幸な猫をなくそう」という思いに賛同し、ボランティアに名乗りを上げてくれる方が沢山現れたのです！遠方にもかかわらず応援してくれる方も現れました。寝る時間もないぐらいの忙しさの中でも、そんな方たちに元気をもらう日々でした。何千枚ものポスターやチラシ配布等の広報活動も、大勢の仲間が支えてくれました。休日、そして仕事の合間のお昼休みまで、貴重な時間をこのイベントの為に奔走してくれたのです。そのお陰でシンボルマークの大あくび猫のポスター、あの時期は街中で見かけました。どれほど沢山の人の目に留まったか分かりません。また、思いもよらないアクシデントが起こったこともありました。その時も救いの手を差し伸べてくれる仲間がいました。みんなのパワーで頑張れた半年でした。

そしてとうとうやってきたイベント当日。朝目覚めると、昨夜の雷雨が嘘の様な晴天でした。天の神様に心から感謝しつつ、どのくらいのお客様が来てくれるのだろう、と期待半分、不安半分で会場に向かいました。

到着し、開場まであと 2 時間！！と最終準備にバタバタしていた中、スタッフの声にふっと気付けば、扉の前にお客様の列が、、、会場である紀南文化会館の周囲を囲む様に沢山のお客様が並んでくださっていたのです。

そしてオープンと同時にすべてのブースにお客様が溢れました。取材に来てくれた記者さん達もみんな、歩くのも困難な混雑ぶりに驚いていました。お昼に行われたチャリティオークションには善意の寄付で頂いた商品が並び、ボランティアで駆けつけてくれた和歌山放送のきよちゃんの司会でさらに賑わいました。

そんな賑やかな会場の中でも私たちがビックリさせたのは、寄付を下さる方の多さと猫の譲渡会を目指して来てくださった方の多さでした。

「不幸な猫をなくそう、というこのイベントの主旨がお客様にちゃんと伝わったんだ、行くところのない猫を引き取ろうと来て下さった方がこんなに多いんだ、、、」と思うと涙が出そうでした。

この日、猫の到着は渋滞でかなり遅れました。それにもかかわらず 30 組を超えるお客様がずっと待ってくれました。田辺近隣だけではなく大阪から来られた方もいました。この日の譲渡猫のほとんどは、和歌山県動物愛護推進協議会委員の石田千晴先生が和歌山市から連れて来てくださった猫でした。でもあまりのお客様の多さに、先生はもっと多くの猫を連れに和歌山市まで再度往復して下さいました。その結果今までででない譲渡数の猫達が、この日新しいお家とご縁を結ぶことが出来たのでした。

本当に沢山のお客様に来ていただけた長くて短い一日でした。

イベント「ねこのわ」の詳細報告の一部を下記にさせていただきます。

* 来場者数 約3600名、 * 猫譲渡数 26頭、

* オークション代金合計69,400円（商品は、お米、食器、自転車、紀州材猫ハウス、家電製品、等すべて善意の寄附によるもの）

* 寄附・募金 合計 255,047円

予想をはるかに上回る大勢のお客様にご来場いただき、お客様のみならず、出展者の方々からも沢山の寄付をいただきました。

このイベントで集まった合計324,447円は、後日ねこのわ実行委員会からワンニャン会に寄付しています。そしてこの寄附金により25頭の野良猫の不妊去勢手術を行うことが出来ました。猫は繁殖力がとても強い動物です。25頭に手術を行うという事は、この後数年のうちに生まれて来たらう数百匹の不幸な猫の誕生を未然に防いだことになるのです。

イベント名の「ねこのわ」にはいろんな意味が込められています。

「ねこのわ」の“わ”は、漢字にすると“輪”そして“和”です。

「猫と人」そして「猫に関わる人達」の“輪”・“和”です。

イベント開催をきっかけに私たちの周りのこの“わ”が大きくなったように思います。だからこそ、このイベントの成功もあったと思うのです。

そしてこれからもこの“わ”を広げていくことで、この地域から不幸な猫をなくしていくことができると私は信じています。

最後になりましたが、ボランティアとして参加して下さいました沢山の皆さまに、応援して下さいました各方面の協力者様に、発案して下さいました支援者様に改めて心から御礼を申し上げたいと思います。



主催／ねこのわ実行委員会 後援／NPO法人ワンニャン会

ワンニャン会のホームページについて

今年、ワンニャン会のホームページ(<http://wannyankai.com>)をリニューアルしました。

活動報告や、新しい飼い主さんを募集している犬や猫について、イベント予定やボランティアルームのお休みなど、ワンニャン会に関するいろいろな情報が掲載されています。

今号からの会報もホームページから閲覧できるようにいたします。こちらでは写真やイラストなどがカラーでご覧になることができます。

「ワンニャン会」で検索、もしくはスマートフォンやタブレットなどQRコードを読み取れる端末は、下記のQRコードからご利用ください。

どうぞよろしくお願い致します。



主な活動内容

- ・犬、猫の不妊手術の啓発推進活動
- ・犬、猫の不妊手術のサポート活動
- ・行き場のない犬、猫の飼い主探しの仲介
- ・子供の健全育成を育む活動
- ・犬、猫の育て方、しつけ相談
- ・地域社会での交流の場の提供
- ・CAPP活動(各種施設での人と動物とのふれあい、訪問活動)

不用品提供のお願い

未使用切手、はがき、洗剤、古タオル、キャットフード、ドッグフード
浴衣や風呂敷などの木綿の布地

そのほか、バザー用品(衣類は、未着用のものに限ります)

このような不用品がありましたら、ぜひご提供をお願い申し上げます。

ボランティア募集中

ボランティアスタッフ、イベントボランティアを募集しております。

ボランティアスタッフは日常業務(動物の搬送、捕獲檻の設置回収、書類作成等)をはじめ、ワンちゃん会の運営にかかわる活動です。

イベントボランティアは、バザーやふれあい活動、訪問活動、しつけ教室などのイベントのお手伝いをお願いしております。

無理のない範囲で参加して頂けますので、ボランティア活動に興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

寄付のお願い

ワンニャン会の活動は、皆様の寄付によって支えられております。

賛助会員の募集もお願いしております。

ご不明な点などありましたら、お問い合わせください。

賛助会員年会費

・賛助会員 3000円

・団体賛助会員 10000円

振込先

郵便振替 口座番号 01080-7-36215

ワンニャン会 代表 中本宣子



2016年度 活動記録

通年活動

田辺市飼い主のいない猫不妊及び去勢手術事業(ノラネコの避妊去勢)
和歌山県地域猫対策支援事業実施団体として活動
ドッグランRin運営(田辺市上野)
犬と猫の譲渡・飼い方相談

2016年

5月

5/14 田辺市主催「田辺市商工祭」にふれあい活動で参加。
5/29 犬のしつけ方教室開催 田辺市新庄総合公園

6月

6/2 和歌山県動物愛護推進協議委員会に参加。

8月

8/8 田辺市商店街振興組合連合会「ヤーヤー祭り」にバザー出店。
8/17
8/19 和歌山県動物愛護センター主催「わうくらす」参加。
8/26

9月

9/11 田辺市市民活動フォーラム主催「市民活動祭り」にバザー出店。

11月

11/3 まるかじり実行委員会主催「近野まるかじり」にバザー出店。
11/13 田辺市主催「田辺市農林水産祭り」にバザー出店。

2017年

1月

1/30 和歌山県動物愛護推進協議委員会に参加。

2月

2/18 ふれあい文化祭実行委員会主催「ふれあい文化祭」にバザー出店

3月

3/13

3/14

3/15 和歌山県狂犬病啓発活動に参加。

3/16

3/17

飼い主のいない猫への避妊去勢手術数(平成二十八年度)

地域猫対策支援事業における手術 98頭

田辺市飼い主のいない猫不妊手術事業における手術 167頭

新しい飼い主さん紹介数

犬 2頭 猫 82頭



平成28年度 収支報告(簡易版)

単位(円)

収入	支出
賛助会員会費 166,940	田辺市猫不妊手術費用 2,634,986
寄付金 1,253,571	田辺市外不妊手術費用補助 110,000
助成金・補助金 500,000	犬と猫医療費 667,645
手術費用受取 715,684	犬と猫フード費 151,028
バザー売上等 373,853	その他事業費 314,465
ドッグラン会費 42,920	管理費 66,359
その他雑収益 5,500	
受取利息 8	
3,058,476	3,944,483

昨年度の収支合計は、－886007 円になりました。

活動計算書等の県庁への提出書類は、ワンニャン会ホームページ
(<http://wannyanikai.com/>)で公開しております。

編集後記

水本 光

いつもワンニャン会をご支援いただきありがとうございます。今号の編集を担当した水本と申します。

初めに第13号会報の発行が大幅に遅れました事、深くお詫び申し上げます。

今年度はイベント「ねこのわ」参加にはじまって、地域猫事業条例の施行、それからイベント、地域猫、イベント、地域猫…よく光陰矢のごとしと言われますが、まさに気が付けば晩秋、クリスマスや年賀状のポスターがあちらこちらに見受けられます。

代表はじめ、スタッフ、ボランティアの方々は、猫の捕獲や搬送等、こちらも矢のように飛び回って奔走しております。

そんなワンニャン会の中、事務と犬担当でおまけに軽い猫アレルギー持ちの私は、周りの忙しい雰囲気に乗じて特に何をするでもなく、とても忙しそうにわさわさしながら日常の事務に従事しているところです。

言い訳、言い逃れ、釈明ですが、今年度はこれまでのところ、犬の案件がとても少なかったのです。

年が明ければ戌年。今後は犬絡みの活動も増える予定なので、ワンニャン会の「ワン」にもご期待頂ければ幸いです。

編集後記のつもりが、長文雑記になってしまいました。

皆様、今年も様々なご支援、ご協力ありがとうございました。よいお年をお迎えください。

「紀州ネコ砂」のご紹介

「紀州ネコ砂」とは田辺市龍神村、川口建設さんがヒノキの間伐材で作った猫用トイレ材の商品名です。地元の間伐材を使用することで、山の手入れや雇用の促進にもつながれば、という思いも込めて作られました。開発時にはワンニャン会も協力し、モニターを募りアンケート調査を行いました。

「紀州ネコ砂」は抜群の消臭効果と原料のヒノキの香りで、トイレのにおいが気にならなくなったと評判です。価格もリーズナブルで、燃えるごみとして処理できます。

紀州ネコ砂

容量:2.5リットル 価格:500円

紀州間伐木材 ヒノキ 100%

使用方法:猫1頭あたり、1か月1.5ℓの使用が目安となります。

システムトイレ(すのこ式トイレ)用の商品です。

ウンチは毎日スコップ等で取り除いてください。

1か月に一度、全入れ替えして下さい。

使用状態によって、補充しながらご利用ください。

使用後は燃えるごみとして処分できます。

※容量、価格は変わることがあります。

システムトイレについての詳細等はワンニャン会にお問い合わせください。

紀
州
猫
砂



取扱い:KWカンパニー

お問い合わせ:KWカンパニー 中平 090-6823-8839

ワンニャン会 中本 090-5369-7855

会報

第 1 3 号

2 0 1 7 . 1 1

N P O 法 人 ワ ン ニ ャ ン 会

ボ ラ ン テ ィ ア ル ル ーム

〒646-0026 和歌山県田辺市宝来町 26 長盛宝来ビル 1 F
事務局

〒646-0050 和歌山県田辺市天神崎 29-17

TEL 090-5369-7855

ワ ン ニ ャ ン 会 ホ ー ム ペ ー ジ

<http://wannyankai.com/>

